

# 各産業分野の令和3年度の進捗状況 及び今後の取り組み

## 《目次》

○ 農業分野	1
○ 林業分野	2
○ 水産業分野	3
○ 商工業分野	4
○ 観光分野	5
○ 連携テーマ（移住促進）	6
○ 連携テーマ（外商（食品加工））	7

# 令和3年度の進捗状況及び今後の取り組み【農業分野】

## ◆分野を代表する目標：農業産出額等

	H30 (出発点)	R元	R2	R3	R4	R5
目標	1,171	1,060	1,195	1,200	1,210	1,221
実績	1,177	1,123	1,120	—	—	—
達成度	A	A	B	—	—	—

単位：億円

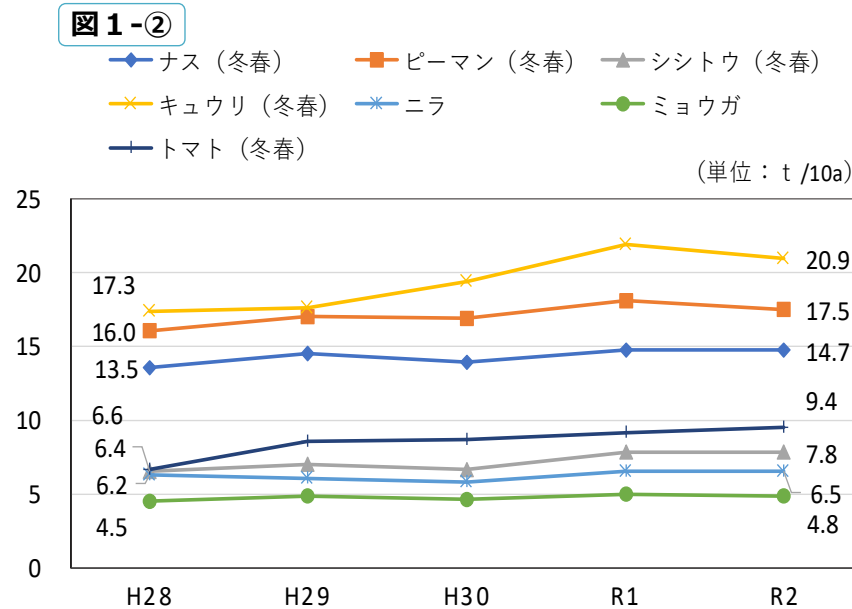
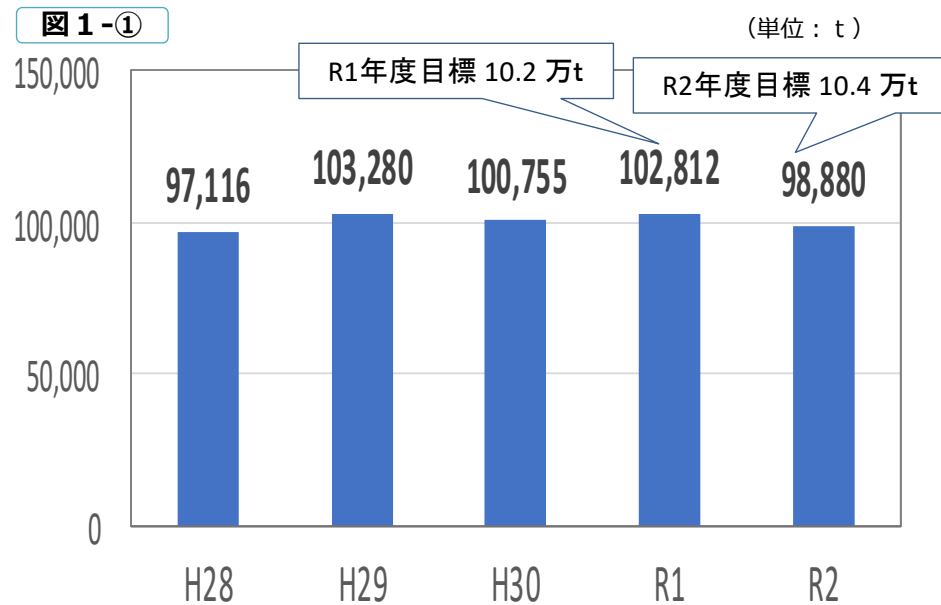
本年12月公表予定

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
—	達成度の判断が困難なもの

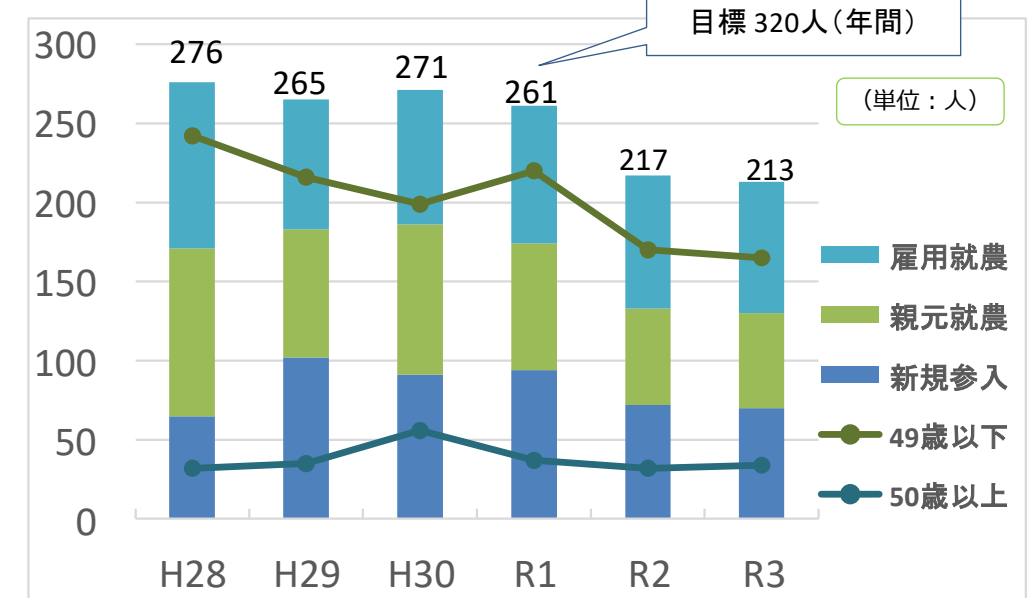
## ◆分野を代表するR3年度到達目標の達成状況（見込み）

- 戦略目標「野菜主要7品目の出荷量」については、環境制御技術の導入により反収が着実に増加しており（図1-②）、R3年度目標10.6万トンはおおむね達成の見込み。
- 分野を代表する目標「農業産出額等」については、環境制御技術の導入等による生産量の増加が見込まれる一方で、コロナ禍による業務需要の減少等の影響を受け業務需要の多い品目において販売単価の落ち込みが見られたため、R3年度目標の1,200億円の達成は厳しい状況が予想される。（R3農業産出額等はR4.12月公表予定）
- 戦略目標「新規就農者数（図2）」については、R2年度同様、コロナ禍の影響を受けて減少しており、R3年度実績は213人と目標の320人は未達。
- 戦略目標「関西圏における外商額（図3）」については、コロナ禍による業務需要やインバウンドの減少により、市場全体の規模が縮小した影響を受け、R3園芸年度実績は94億8,000万円と目標のR3年度の110億円は未達。

## ■野菜主要7品目の生産量(図1-①)と反収(図1-②)



## ■新規就農者数 [図2]



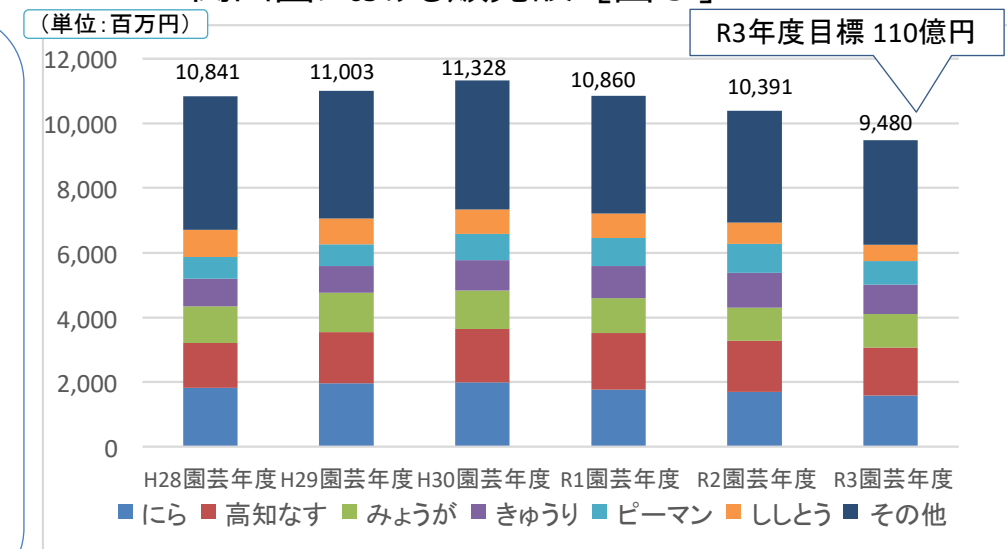
## ◆今後の取り組み

R5年度の農業産出額等の目標1,221億円の達成に向け、以下の取組を強化する。また、2050年のカーボンニュートラルの実現に向け、国のみどりの食料システム戦略に対応し、グリーン化の取組を強化する。

### <R4に強化する主な取組>

- ①反収のさらなる向上等に向けたIoTプロジェクト及びデータ駆動型農業の推進  
IoTクラウドの本格運用開始、利用農家の拡大、JAとの連携による営農支援体制の強化 等
- ②新規就農者年間目標320人の達成に向けた対策の強化  
就農に至るまでの各段階(呼びかけ、就農相談、農業体験・就農研修)において、就農区分ごと(新規参入、親元就農、雇用就農)にこれまでの取組を検証し、それぞれのターゲット等に応じた総合的な対策を推進
- ③【関西戦略】卸売市場を通じた県産青果物の販売強化  
新たに品目別戦略(ニラ、ナス、ミョウガ、文旦等)を策定し、市場関係者と連携した戦略的な取組を推進
- ④みどりの食料システム戦略の推進  
新技術の開発、既存技術の普及、有機農業の推進、施設園芸における脱炭素・省エネルギー対策 等

## 関西圏における販売額 [図3]



# 令和3年度の進捗状況及び今後の取り組み【林業分野】

## ◆分野を代表する目標：原木生産量、木材・木製品製造業出荷額等

	H30 (出発点)	R1	R2	R3	R4	R5
目標	76.5	78.0	71.8	74.4	77.0	79.6
実績	64.6	67.1	63.7	65.6	-	-
達成度	C	B	B	B	-	-

	H30 (出発点)	R1	R2	R3	R4	R5
目標	220	220	217	218	224	228
実績	214	217	-	-	-	-
達成度	B	B	-	-	-	-

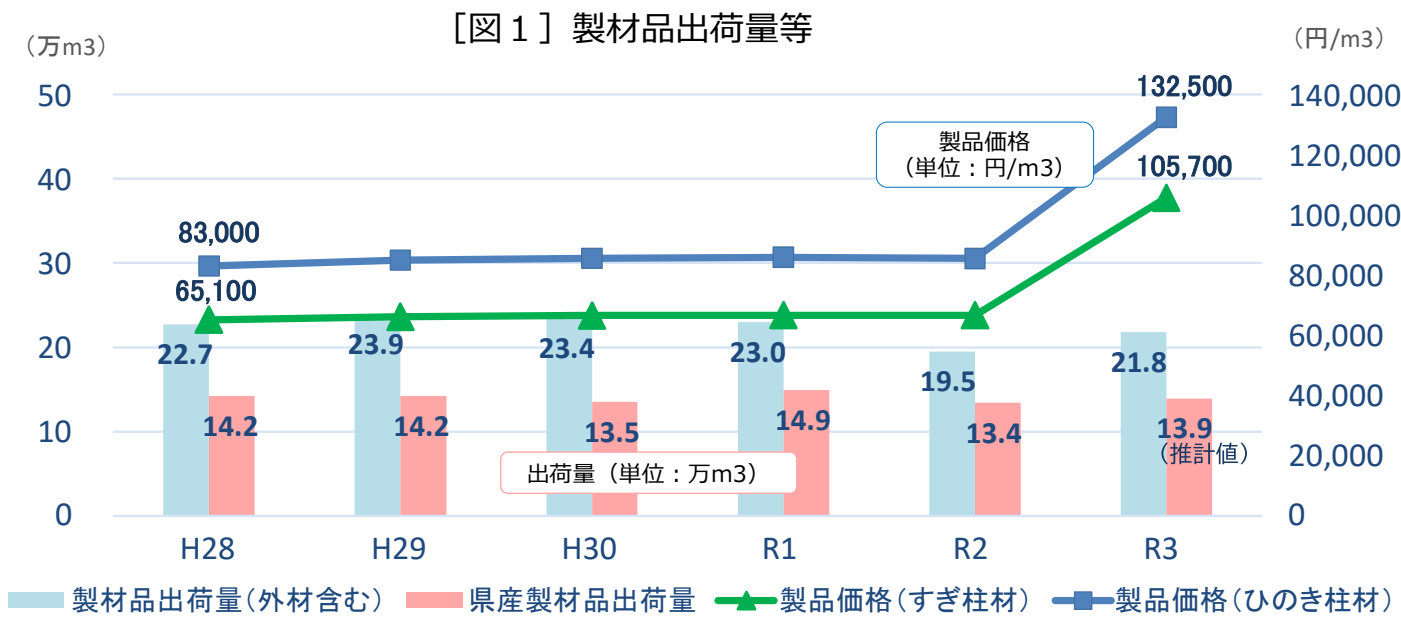
指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

(注) 第4期産業振興計画 (R2~5) で目標を見直し

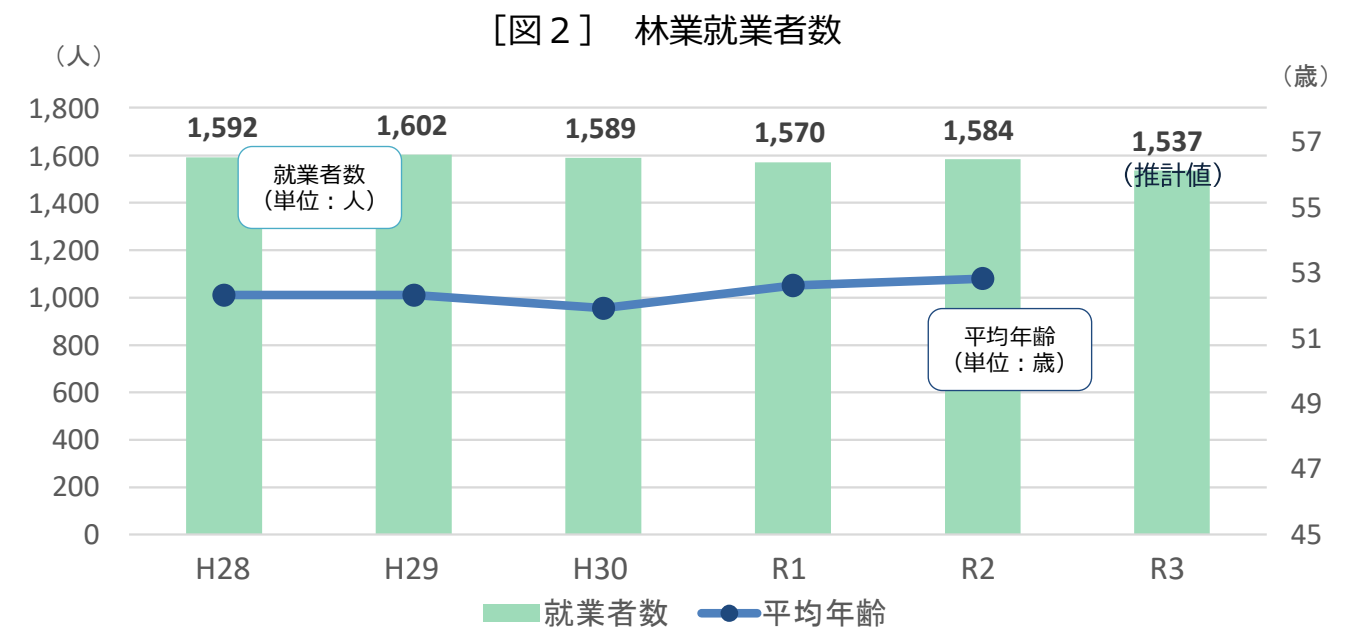
本年9月頃  
公表予定

## ◆分野を代表するR3年度到達目標の達成状況（見込み）

- 「原木生産量」のR3年実績は65.6万m3と、新型コロナウイルスの影響により木材需要が落ち込んだR2年の63.7万m3は上回るものの、目標の74.4万m3には未達。  
・木材価格の上昇に伴う皆伐の増加はあったものの、木材需要が落ち込んだR2年に原木生産を伴わない保育間伐や作業道整備にシフトした体制から、増産に向けた体制（施業地の確保、人員配置など）への移行に時間を要したことが大きな原因。価格上昇当初の様子見や夏場の雨の影響なども要因と考えられる。
- 「木材・木製品製造業出荷額等」のR3年実績は、ウッドショックと呼ばれる輸入材の減少に伴う国産材の需要増、価格の高騰により、目標である218億円を超えることが期待される。



R3年は、ウッドショックの影響により製品価格が高騰。ウッドショックへの対応のため、製材事業者の増産を支援してきたものの、R3年上半期の原木不足の影響等により、県産製材品出荷量は、13.9万m3（推計値）にとどまり、R3年目標の15.2万m3には届かない見込み。



R3年度は、林業大学校等の各種研修やフォレストスクールの開催などにより担い手の育成・確保に取り組んできたが、高齢化による退職が多いことなどもあり、林業就業者数は1,537人（推計値）となり、R3年度目標の1,650人には届かない見込み。

## ◆今後の取り組み

- 生産体制の強化、事業地の確保や再造林の推進の取組とあわせ、関係者が連携したサプライチェーン強化の取組を加速化し、R5年度の目標の達成を目指す。
  - ①原木生産の拡大・・・新たな作業システムの導入促進（先端機械の実証）、地域SCMの仕組みづくり（合意形成に向けたアドバイザーの設置、原木需給情報を共有するシステムの導入支援）、森林資源情報のクラウド化及び高度利用の促進など
  - ②木材産業のイノベーション・・・原木安定供給に向けた協定取引の促進、需要にマッチした生産供給体制（SCM）の確立、木材乾燥施設の整備の促進など
  - ③木材利用の拡大・・・非住宅建築物の木造化・木質化への支援、CLT等の普及促進（フォーラムや技術研修会の開催、施主や建築士向けの事例集によるPR）、木造建築物の環境不動産としての価値に見合う優遇措置の検討など
  - ④担い手の育成・確保・・・林業労働力確保支援センターに「森のしごとコンシェルジュ」を配置、市町村が実施するOJT研修の支援など



# 令和3年度の進捗状況及び今後の取り組み【水産業分野】

## ◆分野を代表する目標

### 漁業生産額（宝石サンゴを除く）

単位：億円

	H29 (出発点)	H30	R元	R2	R3	R4	R5
目標	-	-	460	506	486	515	520
実績	470	497	471	412	-	-	-
達成度	-	-	A	C	-	-	-

## ◆分野を代表するR3年度到達目標の達成状況（見込み）

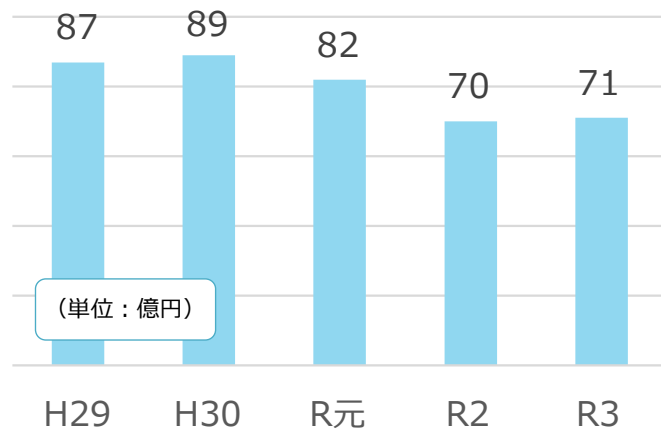
R5年3月頃  
公表予定

### <漁業生産額（宝石サンゴを除く）>

- 戦略目標「鮮魚の県内市場取扱額（図1）」のR3年度実績は71億円で、目標である91億円は未達（目標比78%）。
- 戦略目標「養殖生産量（図2）」のR3年実績の速報値は17,700トンで、目標である20,760トンは未達（目標比85%）の見通し。
- 以上のことから、分野を代表するR3年度の数値目標「漁業生産額（宝石サンゴを除く）486億円」までは届かないことが予想される。

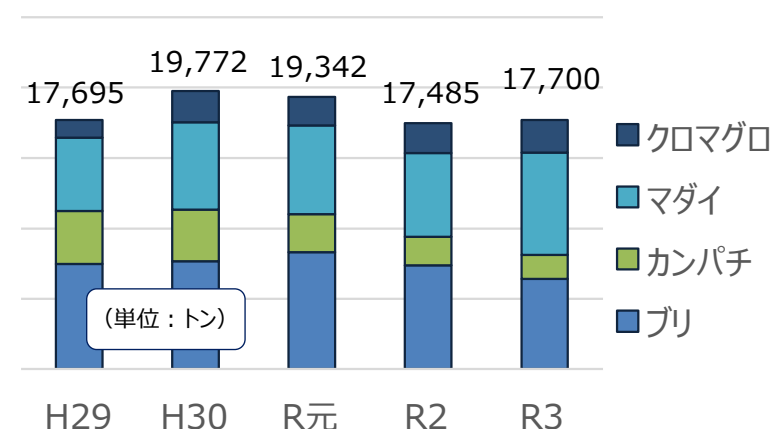
[図1] 鮮魚の県内市場取扱額

[図2] 養殖生産量（ブリ・カンパチ・マダイ・クロマグロ）



資料：漁業協同組合水揚げ資料

コロナ禍での飲食店等の需要減少によるキンメダイなどの高級魚の需要減、キンメダイやメジカの不漁などにより、R3年度の目標91億円は未達



資料：農林水産統計

新型コロナウイルス感染症の影響による今後の不安感等により、R2年春先からのブリ稚魚の池入れ尾数が抑えられたため、ブリの生産量が減少し、R3年度の目標20,760トンは未達

## 水産加工出荷額

単位：億円

	H29 (出発点)	H30	R元	R2	R3	R4	R5
目標	177	200	230	255	265	268	270
実績	199	233	246	-	-	-	-
達成度	S	S	A	-	-	-	-

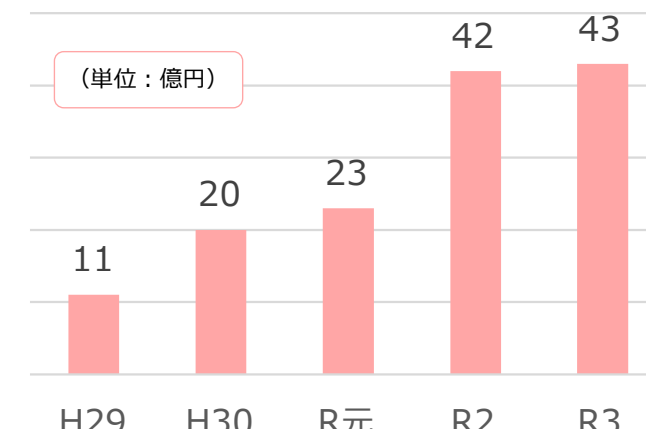
本年9月頃  
公表予定

### <水産加工出荷額>

- 戦略目標「養殖魚の前処理加工出荷額（図3）」のR3年度実績は43億円と、R2年度実績を上回ったが、目標の45億円を若干下回った。
- コロナ禍の中、飲食、旅館やホテル等への県内事業者からの直接出荷は落ち込んだものの、販売が堅調な量販店向けの前処理加工品の需要の高まりにより、産地での前処理加工が順調に推移したことにより、分野を代表するR3年度の数値目標「水産加工出荷額265億円」は、概ね達成することが予想される。

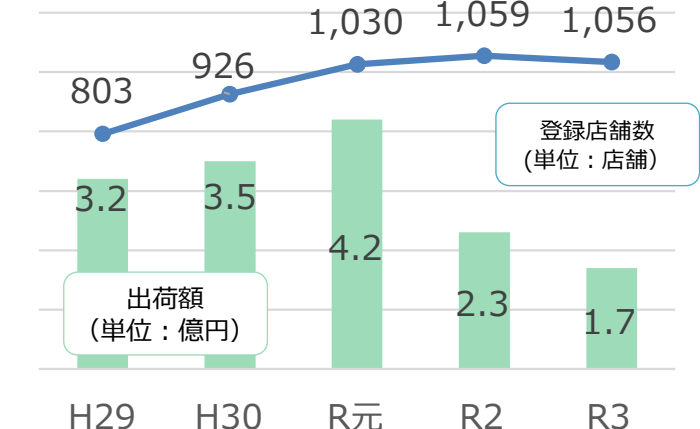
[図3] 養殖魚の前処理加工出荷額

[参考] 応援の店への出荷額



資料：加工事業者への聞き取り

R3年度は、ブリの在池量が少なくR2年度よりもブリの加工量は減少したが、マダイの加工量が増加したことにより概ね目標を達成



資料：県内参画事業者へのアンケート調査

R3年は高知フェアやシェフグループ活動の支援、オンラインを活用した産地見学会や試食商談会等に取り組んだが、コロナ禍の影響を受け取引額は減少

## ◆今後の取り組み

- 操業の効率化による生産性の向上などにより、R5年度の目標の達成を目指す。

### ①効率的な漁業生産体制への転換

- …高知マリンイノベーションの推進

(利益が見える化し、操業の効率化を支援するツールの開発 など) など

### ②かつお・まぐろ漁業、定置網漁業の振興

- …事業戦略の策定・実行支援、法人等の生産現場への参入促進 など

### ③養殖生産の拡大…ブリ人工種苗の導入による養殖経営の安定化 など

- 市場対応力のある産地加工体制の構築を図るとともに、ネットワークを活用した外商活動を強化することによりR5年度の目標の達成を目指す。

### ①水産加工施設の立地促進

- …県中・西部の加工施設の円滑な操業開始への支援、県中・東部での新規施設の立地促進

### ②「高知家の魚応援の店」とのネットワークを活用した外商活動の強化

- …営業専任スタッフを2名配置する等きめ細やかな営業活動及びフォロー営業を実施 など

### ③消費地市場とのネットワークを活用した取引の拡大

- …関東・関西卸売市場関係者と連携した量販店、飲食店チェーンへの販売拡大 など



# 令和3年度の進捗状況及び今後の取り組み【商工業分野】

## ◆分野を代表する目標：製造品出荷額等

単位：億円

	H30 (出発点)	R元	R2	R3	R4	R5
目標	5,900	6,000	6,100	6,200	6,350	6,500
実績	5,945	5,855	-	-	-	-
達成度	A	B	-	-	-	-

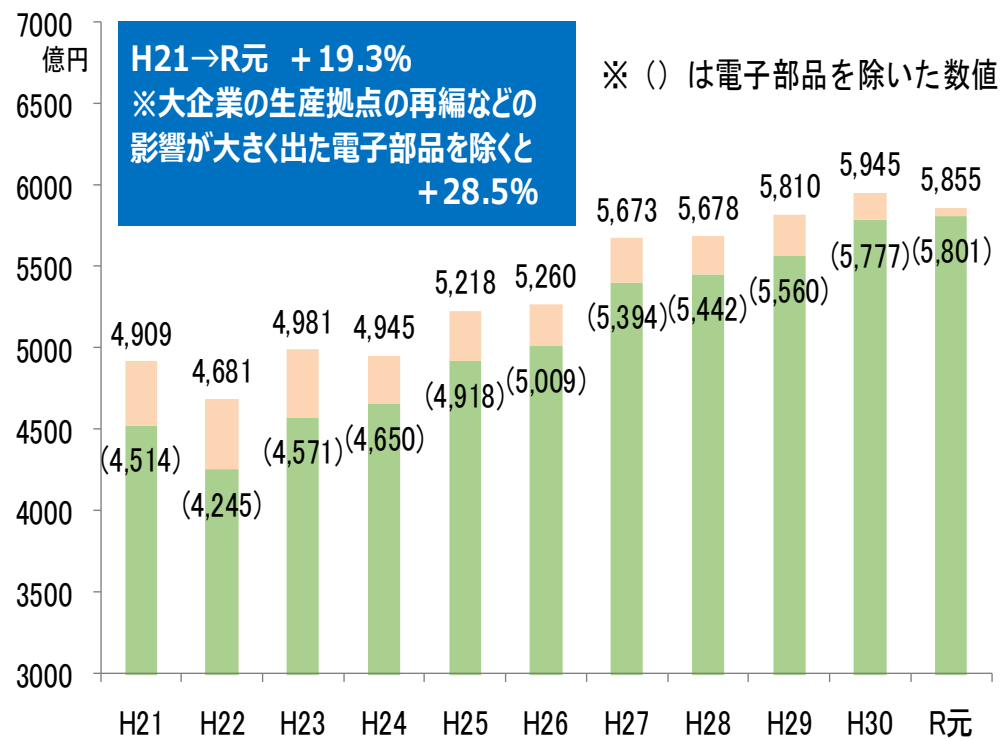
本年9月頃公表予定

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

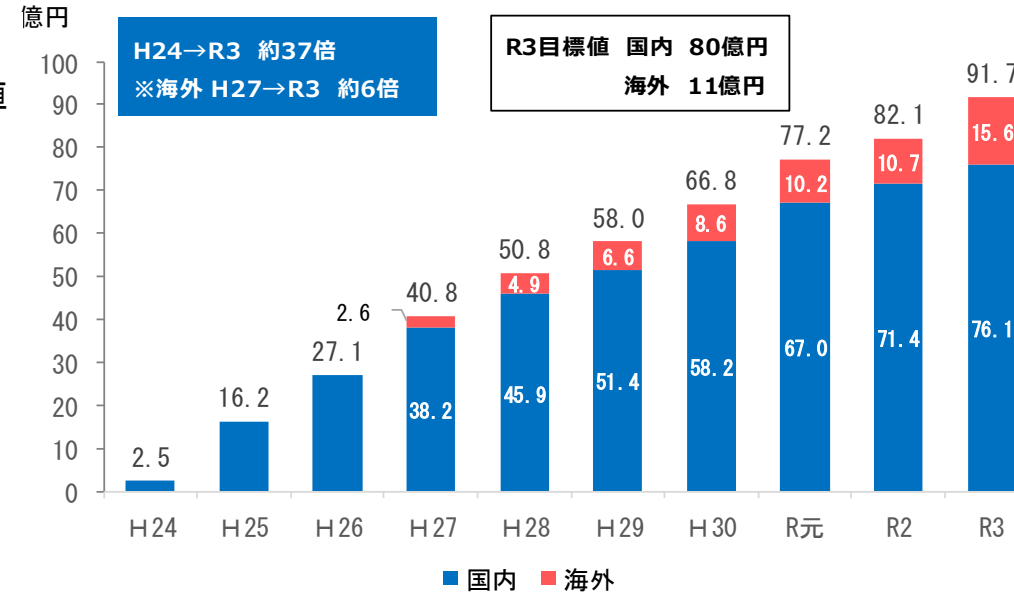
## ◆分野を代表するR3年度到達目標の達成状況（見込み）

- 令和元年実績は5,855億円と前年を下回ってはいるが、大企業の生産拠点の再編などの影響が大きく出た電子部品を除くと、平成23年度以降9年連続で増加傾向にある【図1】。
- 令和2年・3年の主要なKPI実績は、製造品出荷額等に関する目標に対して概ね順調に推移している【図2】。また、製造業の労働生産性も上昇傾向にある【図3】。
- 一方、コロナ禍の長期化に加え、令和3年度末からはエネルギーや資材価格等の高騰、納入遅延等により事業活動に影響が生じている。
- 以上のことから、分野を代表するR3年の数値目標「製造品出荷額等6,200億円」の目標達成見込みは不透明。

【図1】製造品出荷額等の推移

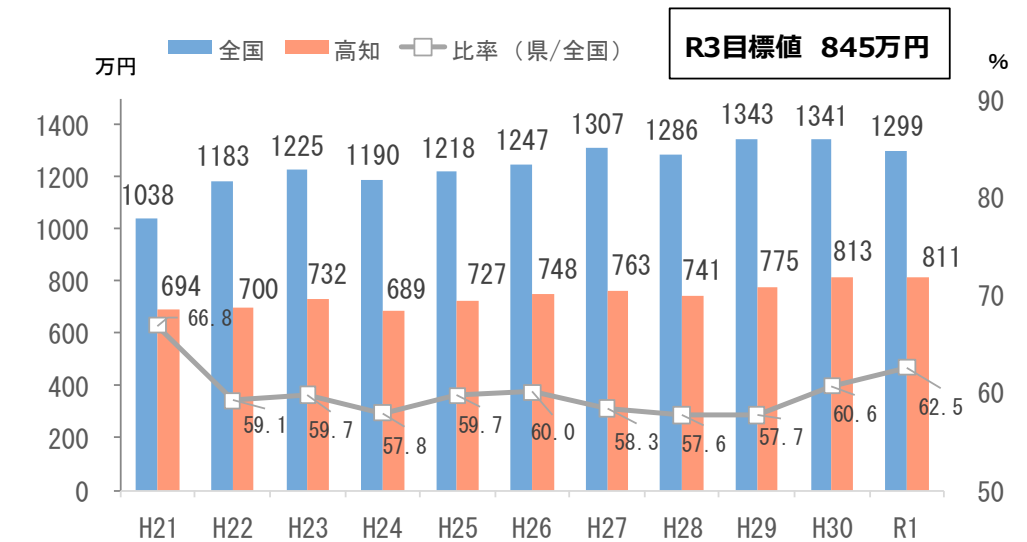


【図2】産業振興センターの外商支援による成約額



R3年度目標を達成。ただし、国内分は展示会商談会の中止等により目標未達。一方、海外分は大型案件の成約があり目標達成

【図3】製造業の労働生産性（従業者1人当たり付加価値額）



労働生産性（従業者1人当たり付加価値額）は上昇傾向にあるものの、全国値との比較では6割程度と依然大きな開きがある。担い手不足が深刻化する中、生産規模を維持・拡大していくためには、デジタル技術の導入や設備投資を促進すること等により、効率化・省力化を図ることで労働生産性を高めていくことが必要

## ◆今後の取り組み

- 令和5年度の目標6,500億円の達成に向けて、デジタル化・グリーン化・グローバル化を加速化させるとともに、担い手の確保や事業承継の取組を強化していく。
  - ① デジタル化・・・デジタル技術活用を促進し、生産性・付加価値を向上、デジタル化支援の強化（産振センターのコーディネーター1名増員）、デジタルカレッジにおける企業内人材育成、副業・兼業デジタル人材と県内企業のマッチング強化 など
  - ② グリーン化・・・環境負荷の低減に資する製品・技術の開発、プラスチック代替素材活用PJの推進、公設試等による研究開発支援 など
  - ③ グローバル化・・・見本市等のエリア拡大による商談機会の確保、外国人材を活用した海外展開（ミッション団の派遣（ベトナム・インド）） など
  - ④ 担い手確保・・・新規学卒者等の県内就職促進（提案型就職ガイダンスの実施）、海外から優秀な人材を招聘（高知の魅力をパッケージ化してPR） など
  - ⑤ 事業承継・・・買い手・売り手への支援を強化（融資制度の新設等）、関係機関との連携によるマッチングの強化 など
  - ⑥ 構造転換・・・ウイズコロナ・アフターコロナを見据えた事業の再構築や新たな取組にチャレンジする事業者を総合的に支援 など

# 令和3年度の進捗状況及び今後の取り組み【観光分野】

## ◆分野を代表する目標：観光総消費額

単位：億円

	H30 (出発点)	R元	R2	R3	R4	R5
目標	1,199	1,230	1,053	1,096	1,130	1,288
実績	1,104	1,096	648	699	-	-
達成度	B	B	D	D	-	-

## ◆分野を代表する目標：県外観光客入込数

単位：万人

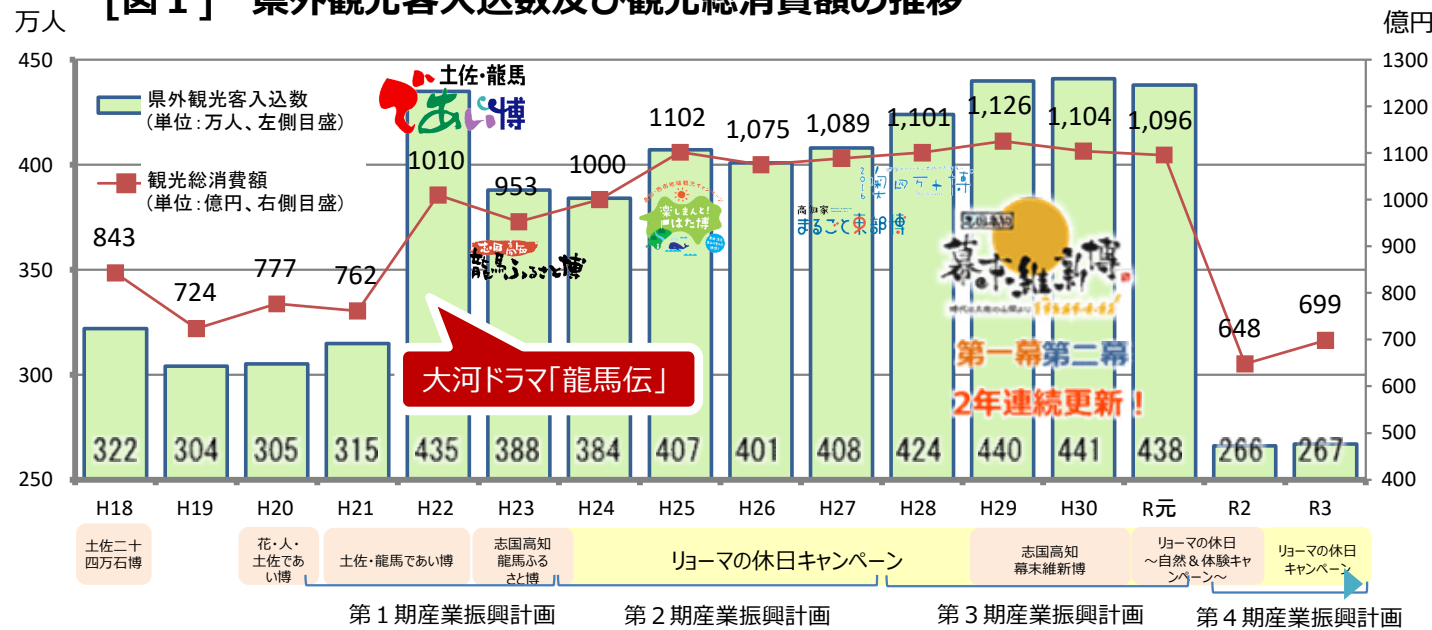
	H30 (出発点)	R元	R2	R3	R4	R5
目標	440	435	400	435	450	460
実績	441	438	266	267	-	-
達成度	A	A	D	D	-	-

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

## ◆分野を代表するR3年度到達目標の達成状況（見込み）

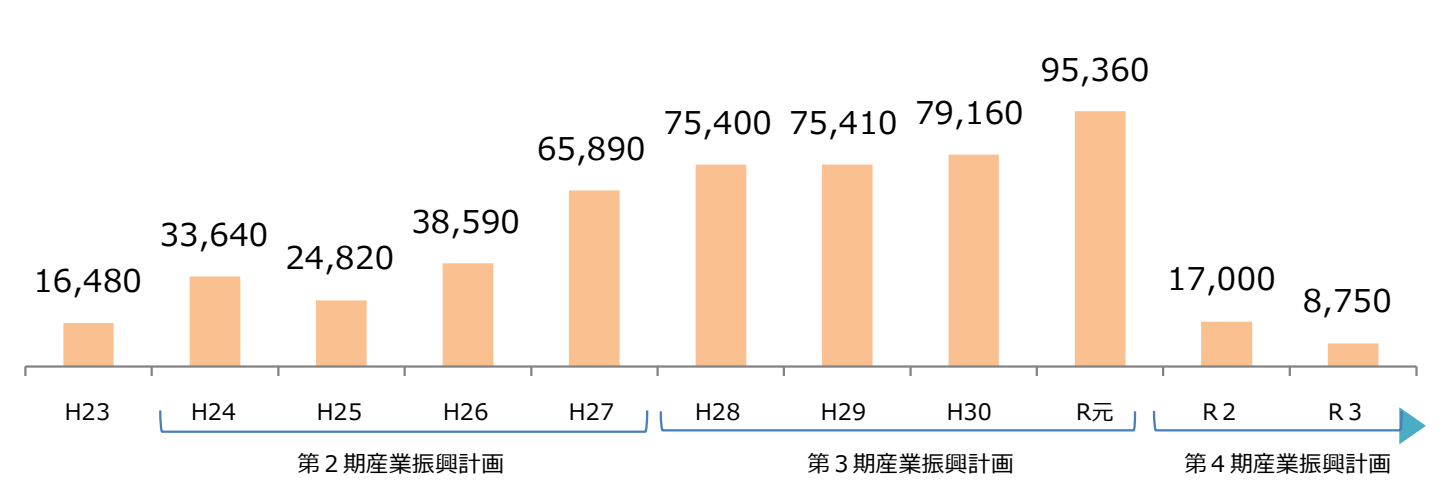
- 「観光総消費額（図1）」のR3年の実績は699億円と、新型コロナウイルスの全国的な第5波、第6波の影響で、コロナ前のR元年の1,096億円と比較すると大きく落ち込んでおり、**目標は未達**。
- 「県外観光客入込数（図1）」についても、観光総消費額と同じくコロナの影響によりR3年の実績は267万人と、コロナ前のR元年の438万人と比較すると落ち込み、**目標は未達**。
- R4年の3月頃からは、徐々にホテル・旅館の予約や利用者が増え始めている状況であり、回復の兆しが見られる。

【図1】 県外観光客入込数及び観光総消費額の推移



【図2】 本県の外国人延べ宿泊者数の推移（人泊）

(出典/観光庁宿泊旅行調査(従業員が10未満の宿泊施設を含む))



R3年は、新型コロナウイルス感染症による渡航制限の影響により、8,750人と目標である2.5万人は未達。

R3年は、一昨年から続くコロナ影響により、R2年の実績から、ほぼ横ばいの状況となっている。そのため、目標の観光総消費額(1,096億円)及び県外観光客入込数(435万人)は未達。

【表1】 その他主要な戦略目標達成状況

項目	出発点	到達目標(R3)	直近の実績(R3)	R4年度到達目標
全国から誘客できる観光拠点の整備	(H30) 8か所	16か所	16か所	18か所
広域観光組織の体制強化(観光庁登録DMO)	(H30) 1	4	4	4
スポーツツーリズムの強化(年間)	(H30) 9万人	13万人	1.1万人	14万人

項目	出発点	到達目標(R3)	直近の実績(R3)	R4年度到達目標
観光客満足度調査における「大変良い」「良い」の割合(観光施設(年間))	79% (H30)	84%	83.2%	84%
観光客満足度調査における「大変良い」「良い」の割合(宿泊施設(年間))	79% (H30)	84%	80.2%	84%

## ◆今後の取り組み

- 今後、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えて、R5年の目標である「観光総消費額」1,288億円、「県外観光客入込数」460万人以上を目指すため、R4年度は特に以下の取り組みを重点的に進める。
  - ①「食」を前面に出した観光キャンペーン「リョーマの休日」の展開
  - ②デジタルデータを活用したマーケティング支援の実施
  - ③宿泊施設魅力向上のための支援
  - ④NHK連続テレビ小説「らんまん」を生かした観光振興の推進
  - ⑤サステナブルを切り口にした観光プロモーションの実施
  - ⑥インバウンドの再開及び大阪・関西万博を見据えた、本県ならではの強いコンテンツづくり



# 令和3年度の進捗状況及び今後の取り組み【連携テーマ：移住促進による地域と経済の活性化】

## ◆分野を代表する目標：県外からの移住者

単位：組

	H30 (出発点)	R元	R2	R3	R4	R5
目標	900	1,000	1,075	1,150	1,225	1,300
実績	934	1,030	963	1,167	-	-
達成度	A	A	B	A	-	-

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

## ◆分野を代表するR3年度到達目標の達成状況（見込み）

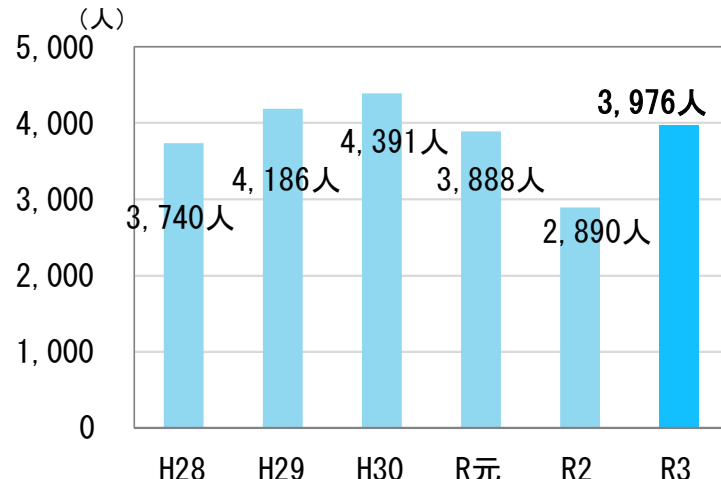
- R3年度は、オンラインを活用してイベントの開催回数を増やし（図1）、新規相談者をコロナ前の水準まで増やした（図2）、相談者一人ひとりへのフォロー回数を増やす（図3）など、きめ細かな対応を実施したこと、中山間地域における求人開拓を進めたことなどが成果の要因
- こうした取組により、R3年度の県外からの移住者数は1,167組となり、R3年度の目標である1,150組を達成（図4）

【図1】 イベント開催状況

	R元			R3		
	開催回数	組	名	開催回数	組	名
フェアなど	15	1,194	1,488	24	1,241	1,342
うちオンライン	-	-	-	16	927	928
個別相談	25	135	145	45	167	171
うちオンライン	-	-	-	15	81	83
交流会	3	39	42	-	-	-
ツアー	2	17	26	-	-	-
合計	45	1,385	1,701	69	1,408	1,513

1.5倍 ↑

【図2】 新規相談者数の推移

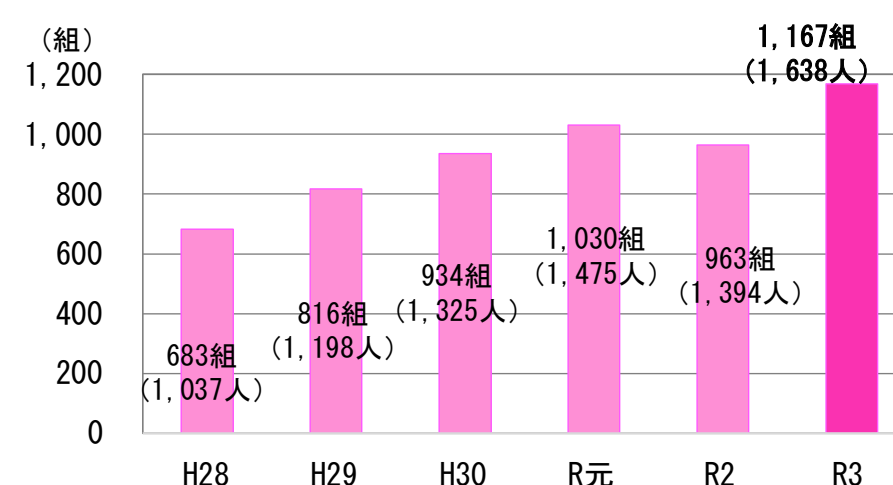


【図3】 「高知家で暮らし隊」  
会員へのフォロー回数

	R元	R3
入会人数	751	808
フォロー人数	357	735
フォロー回数	1182	4688
平均フォロー回数	3.31	6.38

1.9倍 ↑

【図4】 年間移住者数の推移



イベントがコロナの感染拡大の波とぶつかるリスクを分散するため、規模を小さくし、一方で開催回数を増やすことにより、移住検討者との接触機会を確保

- ・回数：コロナ前のR1年度の1.5倍まで増加（R1:45回→R3:69回）
- ・内容：地域おこし協力隊・子育て環境など、関心の高いテーマを設定

加えて、新たな媒体として、民間が運営する全国規模の移住支援サイトを利用した情報発信を積極的に行い、本県の移住相談窓口へ誘導（記事掲載数 R1:3回→R3:96回）

移住促進・人材確保センターや市町村において、これまで相談のあった方へのフォローをきめ細かに実施

- ・センター：本県への移住検討者の会員組織「高知家で暮らし隊」会員へのフォロー回数を、コロナ前の1.9倍に増加
- ・市町村：お試し滞在施設の利用など現地訪問の勧誘、イベントの告知等を積極的に実施

移住者数の推移としては、H28年度の第3期産振計画スタート以降、増加傾向

- ・R2年度は、コロナ禍による行動制限の影響により減少したが、R3年度は再び増加し、過去最高の1,167組に到達
- ・ウィズコロナの移住促進策に加え、中山間地域の求人開拓の推進（R1:65件→R3:162件）などが奏功

## ◆今後の取り組み

- 今後も引き続き、主催イベントの開催や民間の移住支援サイトの活用などによる情報発信の強化、相談者一人ひとりへのきめ細かなフォロー等を行うことに加え、次の3点を強化し、R5年度の目標1,300組の達成を目指す。

- ① 移住を検討し始めて日の浅い相談者への対応
  - ・・・移住に対する不安解消や本県の魅力紹介のセミナーを開催し、移住についての検討熟度を上げ、本県への関心を高める取組を実施
- ② 自分のやりたいコト（仕事、暮らし、生き方）が実現できる場所を探す相談者への対応
  - ・・・本県でできる仕事や暮らしの紹介、先輩移住者との交流機会の提供により、本県を移住の候補地としてもらう取組を実施
- ③ 住宅不足への対応・・・空き家の活用等による住宅確保策を抜本的に強化（所有者の早期決断を促す啓発による空き家の掘り起こし、空き家に関する相談窓口の設置など）



# 令和3年度の進捗状況及び今後の取り組み【連携テーマ：地産地消・地産外商戦略の展開（食品分野）】

## ◆分野を代表する目標：食料品製造業出荷額等

単位：億円

	H30 (出発点)	R元	R2	R3	R4	R5
目標	980	1,000	1,232	1,255	1,278	1,300
実績	1,187	1,203	-	-	-	-
達成度	S	S	-	-	-	-

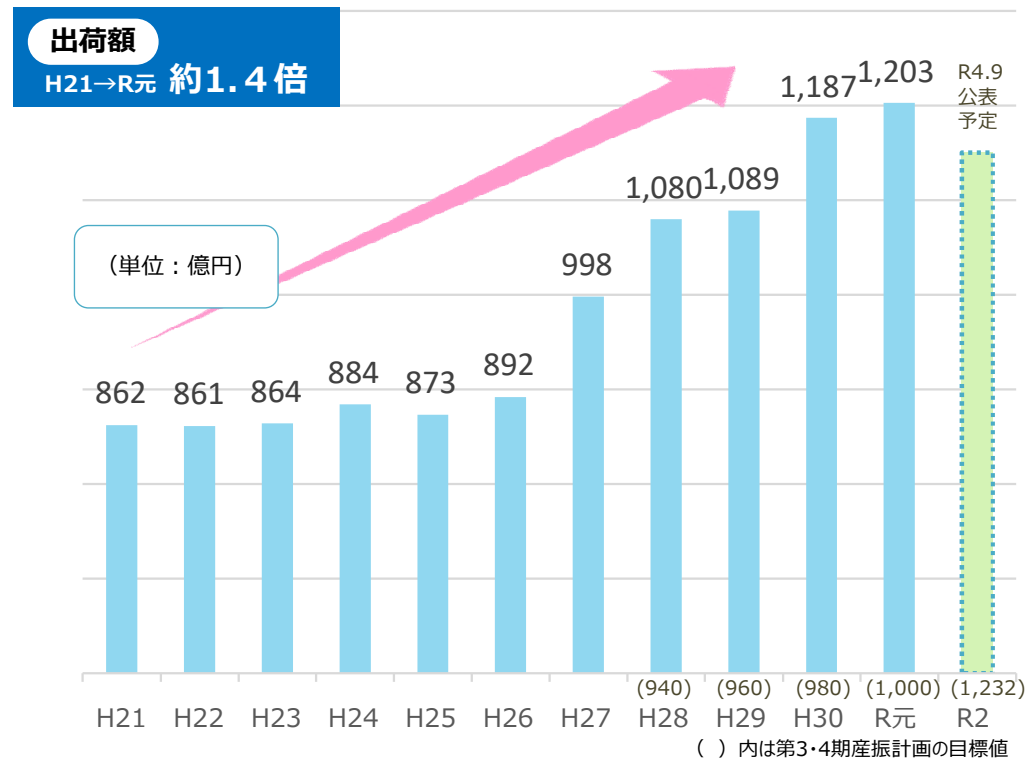
本年9月頃  
公表予定

指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

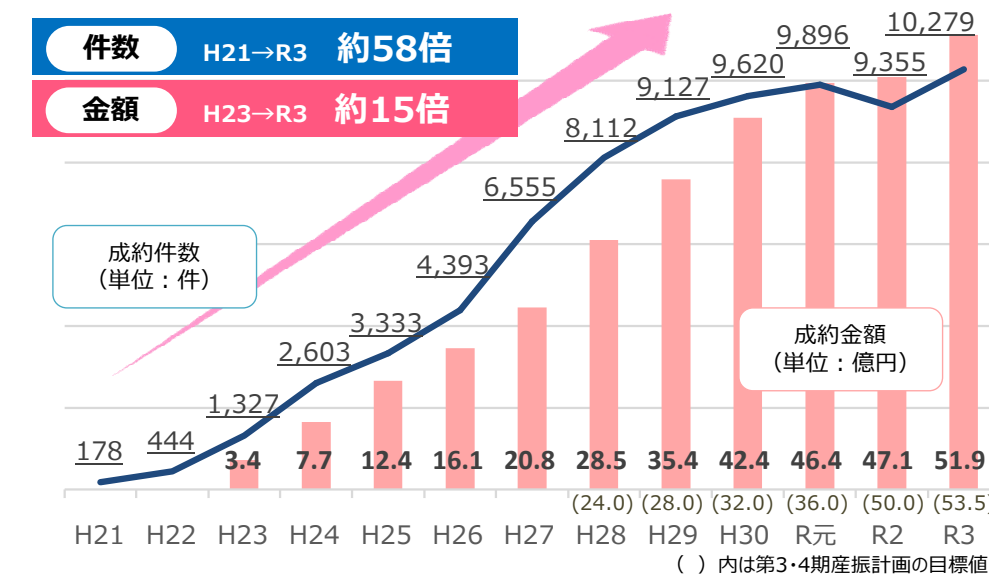
## ◆分野を代表するR3年度到達目標の達成見込み

- 戦略目標「地産外商公社の活動による成約金額（図2）」のR3年度実績は51.9億円と、コロナ禍の影響を受けつつもR2年度実績47.1億円を上回ったが、目標である53.5億円は未達。
- 戦略目標「食料品の輸出額（図3）」のR3年実績は、本年9月に公表される予定だが、前年輸出実績上位20社へのヒアリングによると、R2年実績16.2億円を上回ることが確実な状況。一方で、コロナ禍の影響により水産物の輸出が厳しい状況にあり、目標である29億円は未達の見通し。
- 分野を代表する目標「食料品製造業出荷額等」のR3年度目標である1,255億円までには届かないことが予想される。

【図1】 食料品製造業出荷額等

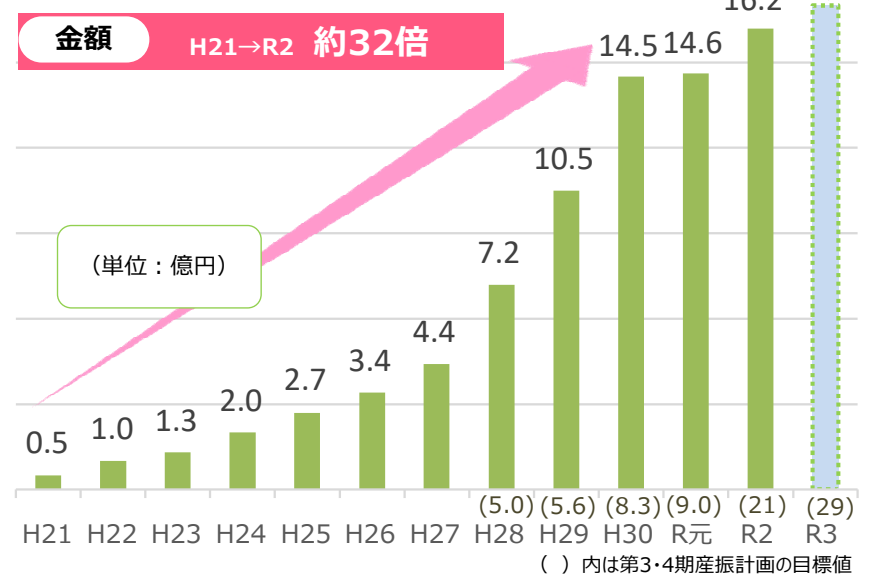


【図2】 地産外商公社の活動による成約金額



R3年度はコロナ禍の影響を受けつつも、公社が培ってきた卸売業者とのネットワークを通じた拡販の結果、小売向けが前年度並みを維持できたことに加え、飲食店向けが前年度を大きく上回ったことから、全体としてはR2年度実績を上回った。

【図3】 食料品の輸出額



R3年は輸出基幹品目（ユズ、土佐酒、水産物）を中心としたプロモーションの強化や生産体制の強化への支援を実施した結果、R2年実績を上回ることが確実であるものの、目標である29億円は未達の見通し。

## ◆今後の取り組み

- アフターコロナを見据えて外商活動を強化し、R5年度の目標1,300億円の達成を目指す。

### ①地産外商公社を核とした外商活動の拡大

- …公社のネットワークを活用した販売拡大
- …行動制限の緩和を見据えたリアルな商談機会の拡大
- …大規模展示会への新規出展 など

### ②有望市場で輸出基幹品目を中心に輸出を拡大

- …食品海外ビジネスサポーター（パリ、NY、LA、上海）等の活用による展示会への出展、賞味会の開催
- …輸出先が求める衛生管理、品質、ロットに対応するための施設整備等への支援